

ThreeBond



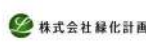
ALL JAPAN
SUPER FORMULA
Championship 2026

RACE REPORT



Round.4-5

SUZUKA CIRCUIT





進化の証明！鈴鹿大会

全日本スーパーフォーミュラ選手権今季3大会目となる第4戦・第5戦が、5月22日(金)～24日(日)に三重県の鈴鹿サーキットで開催された。今回は金曜日にフリー走行、土曜日に第4戦公式予選及び決勝、日曜日に第5戦公式予選及び決勝と、1大会で2レースが開催される。

ThreeBond Racingは今季HONDA育成プログラム出身の小出 峻選手をドライバーとして迎え入れ、トラックエンジニアにベテランの大駒 俊臣氏が加入。体制を刷新して大会に挑んでいる。その効果か、4月の開幕大会第1戦ではスーパーフォーミュラ参戦以降最上位となる5位に入賞。続く第2戦でも9位に入賞し、連続で選手権ポイントを獲得。チームとして快調な滑り出しを見せた。

しかし、大分県オートポリスへ舞台を移した第2大会第3戦ではフリー走行中にエンジントラブルに見舞われた上、予選ではスピンしてクラッシュし、決勝スタート位置は最後尾に沈むこととなった。更には、悪天候により決勝レースそのものが中止(7月富士大会で代替開催)となってしまったことで、新体制となったチームの進化を証明するには至らなかった。

小出選手が育成プログラム時代に走り込んだ「ホームコース」とも言える鈴鹿サーキットで迎えた第3大会。チームは改めて新体制の実力を証明すべく、意気込んでレースウィークを迎えた。





ThreeBond

金曜日 フリー走行

レースに先駆けて22日(金)に行われたフリー走行(FP)では午前のFP1では出走全24台中13番手、午後のFP2では出走全24台中9番手に留まったが、チームはこの鈴鹿大会に向け様々なセッティングやテストメニューを準備し、それを各1時間の短いセッションの間に検証する作業を繰り返していた。その為タイムは上位では無かったが、チームとしては手応えを感じた中で、翌日の公式予選を迎えることとなった。



Round.4 公式予選

第4戦公式予選と決勝レースが行われる土曜日は、サーキット上空に雲が広がり、朝方には雨も降ったが、公式予選が始まる頃には路面は乾き、全車ドライタイヤでのコースインとなった。但し、気温・路温共に前日からは大きく低下し、セッティングの微調整が必要となるコンディションとなった。

午前9時15分から始まった公式予選は、全24台を12台の2グループに分けたQ1と、Q1各組の上位6台が進出するQ2のスタンダードな2段階ノックアウト方式で行われた。小出選手はQ1B組に出走。セッション終わり間際にアタックを行い、5番手に食い込んで、Q2セッションへの進出を果たした。

その後のQ2セッションでは全12台中、8番手となるタイムを記録し、決勝のスターティンググリッドも8番手からと決まった。

この結果について塚越監督は「前回大会で小出選手は悔しい思いをしましたが、それを取り返す結果で、天候が微妙で難しいコンディションの中、上手くマシンを合わせこんでQ1を突破し、勢いに乗り8番グリッドを手に入れてくれました」と語っている。



Pos	No	氏名/予選 Q2 タイム
1	1	岩佐 歩夢 / 1' 37.119
2	16	野尻 智紀 / 1' 37.137
3	50	野村 勇斗 / 1' 37.600
8	12	小出 峻 / 1' 37.851





ThreeBond

Round.4 決勝

午後2時45分、第4戦決勝レースのスタート合図が下された。発進しようとしたその瞬間、クラッチが上手く繋がらず、不可解にもエンジン停止を防ぐアンチストール機構も働かなかったことで完全にエンジンが停止してしまった。ホームストレート上で立ち往生してしまった小出選手は他車が第1コーナーを通過する中、惰性でピットロード出口へ進み、コースオフィシャルの力を借りて安全な位置へと移動して停止した。その後、エンジンスターターを持ったピットクルーが駆けつけてエンジンを再始動。1周半遅れでコースへと復帰した。

チームと小出選手は、スタートに向けてクラッチのセッティングをギリギリまで模索していたが、結果的には上手く噛み合わず、その結果のエンジンストールだった。

周回遅れとなった状態では自力での上位進出は望めないことから、チームは翌日以降のレースで挽回を図るべく、この第4戦を使って、できる限り車両の状況やセッティングのデータ収集を行うことにした。周囲に他車がないこともあって、小出選手のペースは中団グループと同レベルのタイムで推移した。

10周目を迎える頃から雨が降り始め、路面が濡れ始める中、コース上でアクシデントにより、セーフティーカー(SC)が2回に渡り介入した。小出選手は2回目のSC介入のタイミングでピットに入り、タイヤ交換を行ってレースを続行。最終的に小出選手は1周遅れでチェッカーフラッグを受け、完走した車両の中では最下位となる18位でレースを終えた。



ThreeBond

Round.5 公式予選

第4戦決勝では結果が残せなかったものの、第4戦公式予選では8番手につける速さがあったことを受けて、チームは第5戦の公式予選では更に高い位置を狙うべく、思い切ったセッティングをマシンに施して日曜日を迎えた。しかし、朝から好天となったこともあり、“攻めた”セッティングがコースコンディションに合わずマシンはピーキーな操縦性を示すようになった。Q1B組に出走した小出選手のタイムは思ったように伸びず、B組8番手に終わり、Q2セッション進出ができる6番手には0秒775届かず、第5戦決勝レースのスターティンググリッドは15番手と決まった。



Pos	No	氏名/予選 Q2 タイム
1	14	福住 仁嶺 / 1' 37.605
2	1	岩佐 歩夢 / 1' 37.765
3	5	牧野 任祐 / 1' 37.914
15	12	小出 峻(Q1タイム) / 1' 38.466





Round.5 決勝

午後2時45分、第5戦決勝レースがスタート。前日の第4戦でスタートに失敗したチームは、念入りにミーティングを行って調整をやり直し、その甲斐あって小出選手のスタートダッシュは周囲を上回った。第1コーナー進入までに1台、S字から逆バンクでも1台をオーバーテイクしてポジションを13番手に上げ、更に前を狙いながらオープニングラップを終えようとした。

ところが、オープニングラップのシケインへの飛び込みで、横に並んで進入したザック・オサリバン選手の右リアタイヤと小出選手の左フロントタイヤが接触。更に、スピンしたオサリバン選手と再度接触したことでマシンの左右にダメージを負う形となったが、何とか再び加速してレースを続行した。接触で減速した際に複数のマシンにオーバーテイクされたため、小出選手は19番手へと後退した。

この接触に伴い、他車のクラッシュも発生しており、コース上にパーツが飛び散ったことから、SCがレースに介入。先ほどの接触でフロントウイングの破損が発生していないかどうかを確認するため、小出選手はホームストレートをピット寄りに走行し、ピットクルーが目視で異常がないことを確認した。接触によるダメージから違和感を抱く状態での走行になったが、小出選手は走行に大きな支障はないと判断し、レースを続行することを決意した。

レースは5周目から再開となった。上位陣は8周を走り終えてピットへ入ることがルール上許されると、1回以上の実施義務があるタイヤ交換をするためピットインを始めた。しかし大きく後退しながらも走行ペースが良かった小出選手とチームはピットインを遅らせる作戦を選んだ。その結果、見かけ上の順位を5番手まで上げ、レース終盤23周目にピットインし、タイヤ交換を行った。タイヤ交換後、小出選手は17番手でレースに復帰。新しいタイヤでプッシュをかけてコース上で1台をオーバーテイクし、スピンした1台を抜いてポジションを15番手へ引き上げた。

しかし、レースが残り4周となった頃から突然車両の操縦性が悪化し、ペースが急激に低下した。レース序盤の接触による損傷が悪化し、大きく空力バランスが崩れまっすぐ走ることも難しくなった。それでも小出選手は走行を続け、他車のオーバーテイクを許しながらも、トップから43秒425遅れの18位でチェッカーフラッグを受けた。



ThreeBond

ドライバー:小出峻 コメント

金曜日フリー走行の流れが良く、セッション後半に向けて状態が良くなっていく終わり方だったので、その流れのまま第4戦の予選を走り、Q1通過と8番手から決勝レースを始めることになりました。マシンの感触としては非常に良かったです。走り出しから1日で、良い状態までマシンを作り上げられるところに今のチームの強さが出ていると感じます。

ただ肝心の第4戦決勝レースではスタートでエンジンストールしてしまったのがとても残念です。エンスト後はデータを取ろうとロングランを行いました。走行ペースが良かったことから、翌日の第5戦予選では欲が出てセッティングを攻め過ぎて、ピーキーなマシンになってしまいました。しかし、第5戦決勝は前日の走行データがあるので、上手くセッティングを合わせ込めれば良い順位を獲得できるだろうという自信がありました。実際にスタートではポジションも上げることが出来、良い出だしだったのですが、接触により大幅に順位を下げてしまいました。タラレバにはなりますが、接触が無ければ、選手権ポイントを獲得出来たのではないかと思います。

接触によるマシンへの影響はありましたが、大きな問題とはならず、良いペースで走れたので、選手権ポイント獲得圏内まで行けるかもしれないと考えていましたが、タイヤ交換後に、マシンの挙動が急におかしくなり、急激にタイムを落としてしまいました。

この週末を振り返ると、今のチームが持っている実力は絶対に悪くないと感じています。ただ、毎回の予選と決勝で上手く力を発揮できないと結果が出ません。全ての歯車を噛み合わせられるように、チームともしっかりコミュニケーションを取っていこうと思います。力は持ち合わせているので結果は出ると信じています。



監督:塚越広大 コメント

前回のオートポリス大会でしっかりと走れなかった分、鈴鹿大会ではどうやってパフォーマンスを発揮するかということが課題でした。金曜日のフリー走行を走り出した段階では、ターゲットにしているタイムになかなか入れませんでした。様々な事をセッション中に試してまとめ上げ第4戦の予選では8番手という、我々が想定していた最低限のポジションにつけました。しかし決勝は攻めすぎた部分もあって、スタートがうまくいかず、レースがしっかりできなかったため、順位を落としながらも最後までしっかり走りながら、マシンのパフォーマンスを確かめることにしました。

第5戦では、予選が上手くいかず後方からの決勝スタートになったことで厳しいレースになってしまいました。後方からのスタートだとスタート直後のアクシデントに巻き込まれる割合も増えてしまいます。実際に1周目の接触により順位を下げてしまいましたが、その後はトップグループと同じ様なペースで走ることが出来ました。少しずつではありますが、レースの作戦の幅を出せるマシンに仕上がりがつつあると感じています。次戦、富士大会までの期間には公式テストがあるので、そこで更に経験値を積み上げたいと思います。



トラックエンジニア:大駅俊臣 コメント

金曜日のフリー走行では、色々な事を試そうと事前に準備してきたものがあり、それを一つ一つ確かめて良い悪いを判断していき、それらをまとめた結果、予選は上手くいきました。ただし、決勝スタートでのエンストについては様々試した中で残念な結果となってしまいました。クラッチの調整はどのチームも行いますが、もう少し精度を上げないといけない所を実施出来ていないままにスタートをしてしまいました。

第5戦の予選に関しては、前日と大きく変わった路面コンディションに、上手く合わせられませんでしたが、決勝レースに関しては、相応に良いペースで走れたと思います。今の課題はもっと上位の集団でレースをすることです。様々なことが1つずつ改善されてきてはいるので、歯車が噛み合えば上位に行けると思っています。ただそれが1番難しいことでもあり、産みの苦しみを感じています。





ThreeBond

Round.4 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	1:05' 12.423
2	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	1:05' 13.183
3	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	1:05' 13.582
4	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	1:05' 19.062
5	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	1:05' 22.842
6	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:05' 23.386
7	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:06' 09.442
8	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	1:06' 13.411
9	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	1:06' 17.756
10	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	1:06' 18.303
11	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:06' 26.734
12	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:06' 29.124
13	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:06' 29.473
14	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	1:06' 31.216
15	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	1:06' 31.593
16	28	小林 利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC	1:06' 34.158
17	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	1:06' 54.427
18	12	小出 峻	ThreeBond Racing	1Lap 遅れ
-	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	9Laps 遅れ
-	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	9Laps 遅れ
-	9	野中 誠太	KCMG	14Laps 遅れ
-	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	14Laps 遅れ
-	8	山下 健太	KCMG	17Laps 遅れ
-	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	19Laps 遅れ



ThreeBond

Round.5 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	55' 58.747
2	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	55' 58.987
3	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	55' 59.367
4	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	56' 03.623
5	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	56' 06.956
6	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	56' 09.702
7	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	56' 10.653
8	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	56' 11.096
9	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	56' 11.330
10	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	56' 12.323
11	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	56' 15.828
12	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	56' 16.916
13	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	56' 17.669
14	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	56' 27.999
15	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	56' 30.551
16	8	山下 健太	KCMG	56' 31.599
17	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	56' 40.493
18	12	小出 峻	ThreeBond Racing	56' 42.172
19	9	野中 誠太	KCMG	56' 42.323
20	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	56' 44.423
21	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	56' 48.545
22	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	56' 51.462
23	28	小林 利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC	57' 28.048
-	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	17Laps 遅れ



ThreeBond

Drivers & Team Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	太田 格之進	52	2+10	3+20	2+	4	11							
2	岩佐 歩夢	37.5	3+7.5	1+3	3+	3+0	2+15							
3	福住 仁嶺	35	0	11		1	3+20							
4	サツシャ・フェネストラズ	26.5	2.5	0		20	4							
5	阪口 晴南	23	0	15		0	8							
6	坪井 翔	18	1	0		11	6							
7	松下 信治	16	0	1		15	0							
8	ルーク・ブラウニング	16	0	8		8	0							
9	大湯 都史樹	13	0	2+6		5	0							
10	佐藤 蓮	8.5	1+5.5	0		0	2							
11	ザック・オサリバン	7	0	5		2	0							
12	イゴール・オオムラ・フラガ	7	4	0		0	3							
13	チャーリー・ブルツ	6	0	0		6	0							
14	牧野 任祐	6	0	0		0	1+5							
15	小出 峻	5	3	2		0	0							
16	野尻 智紀	4.5	1.5	0	1+	2+0	0							
17	山下 健太	4	0	4		0	0							
18	ロマン・スタネック	3.5	0.5	0		3	0							
19	野村 勇斗	3	2	0		1+0	0							
20	小林 可夢偉	1	0	0		0	1							

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	50	0+10	0+20	-	0+4	5+11							
2	VANTELIN TEAM TOM'S	44.5	1+2.5	0+0	-	11+20	6+4							
3	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	34	0+0	15+6	-	0+5	8+0							
4	NTT docomo Business ROOKIE	32	0	11	-	1	20							
5	TEAM MUGEN AUTOBACS	27	7.5+1.5	3+0	-	0+0	15+0							
6	DELIGHTWORKS RACING	16	0	1	-	15	0							
7	REALIZE KONDO RACING	16	0+0	8+0	-	8+0	0+0							
8	PONOS NAKAJIMA RACING	14.5	5.5+4	0+0	-	0+0	2+3							
9	TEAM IMPUL	7	0	5	-	2	0							
10	TEAM GOH	6	0	0	-	6	0							
11	ThreeBond Racing	5	3	2	-	0	0							
12	KCMG	4	0+0	4+0	-	0+0	0+0							
13	ナビクル Buzz MK RACING	3.5	0.5	0	-	3	0							
14	San-Ei Gen with B-Max	2	2	0	-	0	0							
15	KDDI TGMGP TGR-DC	1	0+0	0+0	-	0+0	1+0							
-	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	0	0	0	-	0	0							

